所　報

1. 研究所活動報告

1. 研究所主催講演会

1979年度は講演会を2回開催した。

(1) 1979年9月26日　奥津敬一郎教授（東京都立大学）：中国における日本語教育――我們的朋友遍天下

(2) 1980年2月15日　末武国弘教授（東京工業大学）：教育工学の研究開発におけるハードウェア，ソフトウェア，ユースウェアの3つの調和について――東京工業大学教育工学開発センターの研究開発の状況を試作した教育機器の紹介

2. 研究会

1979年度から所員の研究報告を中心として研究会の開催を始めた。

1979年度

① 10月17日，立川明講師：民主的な授業形態における仮説的方法の役割

② 11月5日，石川光男教授：総合的学習評価について

③ 12月12日，浜野保樹助手：マス・メディアと反社会的行動――性的描写をめぐって

④ 1月21日，山口和孝助手：宗教的情操教育の展開と矛盾

1980年度

① 5月16日，原一雄教授：一般能力検査（ＳＡＴ）の追跡研究――変遷と現状

② 6月20日，村瀬良子助手：キェルケゴールにおける批判的主体の形成

3. 研究助成金

本研究所の「大学入試における学力テストと能力テストの比較研究」に対して1980年度から私学振興財団の学術研究振興資金（1980年度は140万円）の交付を受けることとなった。

研究室活動報告

A　教育哲学研究室

本年度の活動は主として個人研究を通じて行われ，その内容は次のごとくである。

a 教育哲学

讃岐和家教授

Ⅰ　研究活動

1　主としてデューイの教育思想を彼の倫理思想および宗教思想との関連におい

て研究した。これと平行して，今世紀初頭以降のアメリカ教育思想，とくに保守的立場の諸思想家の教育哲学，生涯教育の問題，高等教育の問題等の研究をも行なった。

2　下記の共同研究プロジェクトに研究分担者として参加した。

(1)　「私立大学における教員養成の総合的研究」(研究代表者は早稲田大学の鈴木慎一教授)

(2)　「西洋倫理思想の日本における受容の研究研究」(代表者は千葉大学の白田貴郎教授)

(3)　「教職の専門職化に関する女子教員の意識の日本およびフィリピンの比較研究」(Duke 教授およびアテネオ・デ・マニラ大学の Aida Caluag 教授との共同研究)

II　学会発表等

1　1979年8月27日，日本教育学会第38回大会（九州大学で開催)において，鈴木慎一教授他18名と共同で「私立大学における教員養成の総合的研究」の発表を行なった。

2　1979年9月21日，日本デューイ学会第23回大会において，「デューイ的<経験>の独自性」を主題とするシンポジウムに参加し，「教育論の中で」と題する発表を行なった。

3　1979年10月10日から12日まで韓国大邱市の啓明大学で開催されたInternational Seminar on Higher Education に招かれ，"Relevancy of Education to Community Needs" と題する報告を行なった。

4　1979年12月1日，民主教育協会の文献研究会において，カーネギー報告書 "The Missions of the College Curriculum" (1977) について報告を行なった。

5　1980年6月15日，一般教育学会第2回大会において，「多様化する学生像と一般教育」を主題とするシンポジウムを松山商科大学の伊藤恒夫教授と共同で司会した。

III　論文等

1　「教育学の科学性について――理論と実践のつながりをめぐって――」国際基督教大学学報 I－A『教育研究』22，1979年

2　「和辻哲郎のキリスト教理解」，白田貴郎編『西欧倫理思想の日本における受容の研究』(文部省科学研究費補助金研究成果報告書)，1980年3月

3　「文献紹介：カーネギー報告書――大学カリキュラムの使命」，『IDE』，1980年4月号

4　「デューイ的<経験>の独自性――教育論の立場から――」，『日本デューイ学会紀要』21号，1980年6月

5　"Relevancy of Education to the Community Needs," in The Pursuit of Excellence in Higher Education, edited by Ilhi, Synn, Keimyung

University, Daegu, Republic of Korea, 1980.

Ⅳ　その他

教育哲学会，学会誌「教育哲学研究」，一教育学会学会誌，各編集委員

千葉大学講師（「倫理学」を担当）

文部省，一般教育視学委員会委員，および留学生問題調査・研究に関する協力者会議委員

大学基準協会，単位認定研究委員会委員，

関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会，研究委員会委員

三鷹市社会教育委員

キリスト教学校教育同盟，キリスト教学校教師養成事業委員会委員

川瀬謙一郎教授

1.　研究活動

1.　教育思想の背景をなしている人間観，社会思想の研究を意図して，ウェーバーの宗教社会学を手懸りとする研究を継続している。この主題に関連して現在検討中の主題は次の通りである。

(1)　和辻哲郎における基本的価値の構造

(2)　R・ベラーにおける基本的価値の構造

(3)　ＩＣＵ学生の国際的意識

2.　共同研究への参加

(1)　「西洋倫理思想の日本における受容の研究」（研究代表者：千葉大学，白田貴郎教授）

Ⅱ　学会参加

日本倫理学会第30回大会（信州大学教養部），1979年10月13，14日

Ⅲ　著作等

「和辻哲郎とアメリカ」，白田貴郎編『西欧倫理思想の日本における受容の研究』（文部省科学研究費補助金研究成果報告書）1980年３月，pp. 34—38

林　昭道講師

Ⅰ　研究活動

ドイツ教育史を中心としての西欧教育史の中で，教育の基礎的諸概念の成立を検討。

Ⅱ　学会活動

79年10月13，14日　教育哲学会第22回大会（於大阪大学）に出席。

Ⅲ　著作等

1　「ゲーテにおける『自己活動』について」（国際基督教大学学報Ⅰ—A『教育研究23』）

2　『教育史小辞典』（協同出版）の数項目を執筆（近刊予定）

3　『教育小事典』（学陽書房）の数項目を執筆（近刊予定）

立川　明講師

I　学会活動

1. 1979年11月8日～10日，全米教育史学会年次大会（於 メリーランド州，シルヴァー・スプリング）に参加し，"The Founding of the Museum of Comparative Zoology and the Massachusetts Institute of Technology" と題する研究発表を行なった。
2. 1979年12月7日～9日，大学史研究会金沢セミナー（於 金沢）に参加し，「19世紀アメリカの大学と科学」と題して，ロウレンス科学校の創設に関する研究発表を行なった。

II　著　作

1. "The Founding of the Museum of Comparative Zoology in an Educational Crisis of mid-nineteenth Century New England." 国際基督大学学報 I－A『教育研究』22，1979，pp. 11～39.
2. *Intellectuals, Universities, and Societies.* ICU General Education Series 5, 1980, 127 pp.

b.　教育思想史

長　清子教授

I　学会活動

1. 講演「浮田和民の歴史観」，於早稲田大学社会科学研究所，1979年10月17日。
2. 日本イギリス哲学会年次学会におけるシンポジウム「日本におけるイギリス思想の受容一陸羯南と徳富蘇峰一」，1980年3月28日—29日，於大正大学。
3. 上智大学において開催の ACUCA（Associaton of Christian Universities and Colleges in Asia の workshop on "Integrating Moral Values in Higher Education" に UBCHEA の代表者として出席。1980年5月6日—8日。
4. UBCHEA（The United Board for Christian Higher Education in Asia）の訪中代表団（団長は Dr. Nathan M. Pusey，ハーバード大学名誉学長，UBCHEA 会長）を迎え，上智大学，ＩＣＵ共催のシンポジウム "Japan as a Member of Asia : its selfunderstanding and Responsibility" において，"Japanese Views of the Modernization of Asia" のテーマで発題講演，1980年6月3日。
5. UBCHEA 評議員，国際文化会館評議員，日米知的交流委員会委員。教育哲学会理事，日本イギリス哲学会理事等。

II　研究論文，その他

1. 「明治プロテスタントの罪意識——植村正久を軸に——」『日本思想史』（季刊）

No. 12, 1919年10月, pp. 94—104.

2. "Japanese Christianity: Between Orthodoxy and Heterodoxy" *The Image of Christianity in Japan*, 1980年4月, Sophia University. 18頁。

3. 編著『私の生きた二十世紀』(編集者の解説を含む), 日本基督教団出版局, 1980年4月。

4. 「戦後史の原点——敗戦の天皇制」『信濃毎日新聞（1979年8月10日）外. 多数の新聞に掲載さる。

c. 比較教育学

ベンC. デューク教授

I Research & Activities

1. Preparatory activities for research project on Documentary History of Postwar Japanese Education.
2. Preparatory activities for research project on Great Education From Asia.

III Publication:

The Japanese Supreme Court and the Governance of Education, PACIFIC AFFAIRS, Spring Edition, 1980.

教育哲学研究室における助手（非常勤）山口和孝, 村瀬良子, 高橋浩, 大学院学生の活動は次のごとくである。

1. 1980年8月1日, 「第三回教育セミナー」開催。小・中・高教員（卒業者）及び, 教職員, 学生約40名が参加。「ＩＣＵの教員養成課程を考える」（全体会), 「生活指導」, 「教科指導」, 「キリスト教教育」（以上分科会）のテーマで活発な議論を展開した。

2. 大学院セミナーでは以下のコースを提供した。
第二回（1979年春学期）: (1)「国際関係論序論」, (2)「比較文化基礎論Ⅱ」(3)「教育法規講座」, (4)「文献探索法」第三回: (1)「Ｊ．Ｊ．ルソー思想入門」, (2)「中世フランス文化研究」, (3)「教師・学校・社会」, (4)「教育法規入門」

3. 院生を中心に, 年2回研究発表合宿を行っている。

B 教育社会学研究室

原 喜美教授

I 研究活動

前年に引続いて, 教育学科の学生をも含めて, 社会学専修の学生と共に, 新潟県南魚沼郡大和町の農村において, 10月9日から, 16日まで8日間, 新幹線の開通, 大学の誘致などで, 変貌を遂げつつある状況を, 面接により意識調査を行なった。

これで同地域における調査は3年間継続実施したことになった。

次に私個人としては次のプロジェクトに参加して研究を行なっている。

(1) *The Textile Industry and its Women Workers: A Philippines-Japan Comparative Study.* 国際交流基金の援助により，フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学と共同で，引き続き研究を行なっている。

(2) 「東南アジア諸国における教員の現職教育の比較研究」 国立教育研究所の研究員の方々と共同で，2年計画で研究を開始した。(文部省科学研究費による)

(3) 大学放送教育研究会 (社会的・文化的能力に関する女性学的研究) に参加して，藤田健治所長のもとに研究を行なっている。

(4) UNESCO の要請により，*Research on the Status of Women, Development and population Trends in Asia.* に関して資料を収集し，研究を行なっている。(これに関する会議は，本年11月下旬 パリの UNESCO House において開催される予定である。

II 学会発表

(1) 1979年9月第20回日本社会心理学会 国際基督教大学において，学際シンポジュウムに参加した。

「女性の社会的状況と意識の変化がもたらす諸問題」

(2) 1979年9月 第31回日本教育社会学会 文教大学において

「アジアにおける高等教育と学卒者の就業構造に関する実証的研究」，研究チーム(豊田俊雄，新井郁男，梶田美春，金子元久，村田翼夫，米村明夫，原喜美)

(3) 1979年10月 Korean Society for the Study of Educational Sociology の招きにより，韓国大田，忠南国立大学において *Japan's Education Trends and Problems A Sociologist's View* (基調講演)

III 著 作

(1) 『変動社会と教育』現代のエスプリ 1980年6月 (門脇厚司・原 喜美・山村賢明編集)

(2) 「婦人の職業による社会還元をめぐって」ICU『社会科学ジャーナル』第18号(2)，1980年3月。

(3) *Research on the Status of Women, Development and Population Trends in Asia with an Annotated Bibliography* UNESCO, Paris, 1980.

(4) 世界教育事典，授業改革事典などに数項目執筆

IV 講演など

(1) 米国ペンシルバニア州 Slippery Rock State College において (1979年8月)

a) "Education in the Changing Japan"

b）“Woman's Role and Status in Japan”

(1) 嘉悦学園教養講座「アジアにおける婦人の地位――フィリピンを主として」（1979年5月）

(3) ガールスカウト60周年記念講演「ガールスカウト運動の今日的意味」国立婦人教育会館において（1980年4月）

(4) 「おはよう世界の家族から」ラジオたんぱ

a）「フィリピンの家族」

b）「フィリピンの女性」

c）「フィリピンの青年」

d）「フィリピンの教育」

e）「フィリピンの社会」

（1980年1月連続5回放送）

(5) 国立教育研究所研究会「フィリピンにおける学卒者の就業構造について」（1980年2月）

(6) その他ガールスカウト関係のリーダートレイナーに対する研修会において数回講演を行なった。

V　その他

(1) 日本教育社会学会　評議員および国際交流委員

(2) 大学放送教育研究会委員

(3) ＩＳＡ（国際社会学会）Research Committee (Sex Role's in Society) Executive Committee Member

(4) World Association of Girl Guides and Girl Scouts　世界委員

C　教育心理学研究室

1979年8月 尾瀬のパーク・ホテルを会場として恒例の夏季セミナーが実施された。教員3名のほか大学院生，学部生，総数約80名が参加し，分科会，全体会，ハイキングなどが行われた。

9月1日，一年間研究休暇をとられていた原一雄教授が帰任された。

9月3・4・5日の3日間，星野教授が準備委員長となって，日本社会心理学会第20回大会が理学本館を主会場として開催された（第2回以来18年ぶり）。53の個人研究発表，福井勝義氏の特別講演「認知の社会化とエスニック・アイデンティティ」，特別シンポジウム「アジアの社会心理の基本概念」，学際シンポジウム「女性の社会的状況と意識の変化がもたらす諸問題」，同Ⅱ「現代の宗教をめぐって――日本の宗教情況に注目して――」，シンポジウムA「異文化間の摩擦と理解」，シンポジウムB「言語社会心理学への展望」などのほか，「国際レセプション」「会員の夕」などが行われた。特別シンポジウムと他のシンポジウム，また国際レセプションには，

韓国から3名，フィリピン，インド，インドネシアから各1名，スコットランドから1名（グラスゴー大学モスバッハ教授）が参加され，交流の実をあげられた。参加者総数はのべで約900名。

1980年2月15,16両日の午後，本館402号室において学部卒業予定者の卒論研究発表会が行われた。6月卒業予定者を含め30名がそれぞれ発表し質問に答えた。

3月15日　心理学関係の非常勤講師4名の方々をお招きして慰労を兼ねて夕食懇談を行なった。

4月10日　土居健郎教授が着任され，大学院では，精神分析学，精神分析人格理論および精神病理学を，学部では精神衛生のセミナー・講義を担当されることとなり，4月12日に歓迎のお茶の会を催した。

5月13日　午後3時半より図書館セミナー室で，大阪大学人間科学部浜口恵俊助教授による「日本人の『人間』モデル，その理論と実証」と題する講演会を開催した。教員4名のほか学生約20数名が参加し，質疑応答も行われた。

5月24日　原教授を準備委員長として，第19回生理心理学・精神生理学懇話会が理学本館を会場に開催された。主題は「学習と脳：私のアプローチ」で，約110名の参加者があった。

星野　命教授

I　研究活動

1979年度は，前年度にひき続いて，次の3つの，科学研究助成金による総合研究班の一員として，ほぼ隔月に開かれる研究会・シンポジウムなどに出席し，発表，または討論に参加した。

(1)「自我形成と母子関係に関する比較文化的研究」（代表者：東京女子大学白井常名誉教授

(2)「教育における文化的同化と多様化」（代表者：小林哲也京大教育学部教授）

(3)「文化摩擦の一般理論」（特定研究の一部分担代表者：大林太郎東京大学教養学部教授）

また，国立民族学博物館の協力研究員として，「心理人類学の理論的研究」（代表者：祖父江孝男民博教授）の研究会にも出席し発表，討論に参加した。（その結果をまとめたものは，1980年10月に「別冊現代エスプリ，日本人の構造として」公刊される予定）

1980年度に入ってからは，星野が研究代表者となって科学研究助成金総合(B)100万円の交付を受けて，「異文化の生活体験が青少年の適応・価値観・自我同一性に与える変化の社会心理学的研究」を始めた。東京都内の大学に属する分担研究者3名のほかに，仙台，福島，筑波，岡山の各地からも1～2名ずつ総計8名の分担研究者に隔月に集ってもらい情報交換および次年度以降の調査研究計画と実施方法の検討

を準備している。

II　学会発表等

1979年3月30日より4月1日まで東京赤坂のアジア会館で開催された第4回コミュニティ心理学シンポジウムに出席し，「グループ・アプローチとコミュニティ・アプローチの接点」と題して口頭発表を行なった。

4月2・3日　京都竜谷大学で開催されたアメリカ学会の大会において，「イタリア系アメリカ人のコミュニティ形成と民族文化」と題して，口頭発表を行なった。

5月12日　佐賀市において開催された日本社会心理学会公開講演会で「変動する社会と青少年問題」と題して講演した。

7月7日より12日まで，オーストリア・サルツブルグ大学で開かれた「世界精神衛生会議」に出席して，分科会（トピック・ワークショップ）で「日本の海外帰国子女の生活適応と教育の諸問題」について，口頭発表を行なった。

9月3日から3日間　ICU において開催された日本社会心理学会第20回大会特別シンポジウム「アジアの社会心理の基本概念」の企画・司会を行なった。

9月20日から3日間，東京・虎の門の国立教育会館で開催された日本心理学会第43回大会のシンポジウム「国際コミュニケーションにおける異文化間の屈折」の指定討論者の一人となった。

11月23日，日本大学文理学部で開かれた第25回理論心理学会のシンポジウムに招かれて「G. W. オルポートとアメリカ心理学」と題して話題提供を行なった。

1980年3月28・29両日，東京学芸大学で開かれた第2回「海外子女教育を考える」シンポジウムの第三部のパネルディスカッション「帰国子女教育をめぐって」の司会を担当した。

4月27日，国際文化会館で開催された日本平和学会主催の春季シンポジウム「平和と諸科学——行動科学を中心として——」で『平和と心理学』を発表した河合隼雄氏の指定討論者をつとめた。

5月24日，東京学芸大学で開催された日本社会心理学会第24回公開研究討論会における討論「現代社会と性」の司会者をつとめた。

III　著作・論文

"Current Major trends in psychology of Japan", *Psychologia*, XXII, 1; March, 1979, pp. 1-19.

「社会化の比較文化論」，菊池章夫・斉藤耕二編，『社会化の理論』第10章，有斐閣，1979，185-213頁。

「人間の社会化・人格成熟の過程と文化」，築島謙三監修，星野命編『人間探究の社会心理学4　人間と文化』，第4章　朝倉書店，1979，53-64頁

「異文化間研究における社会心理学の研究方法と一般的問題」，同上，第9章，

同上，134-150頁

「帰国学生の在外体験に見る生活適応とアイデンティティをめぐって」京都大学教育学部比較教育学研究室編『教育における文化的同化と多様化——マルティ・カルチュラル・エデュケーションの研究——研究集編集Ⅰ』，1980，116-125頁。

「カルチャー・ショックとは何か」，小此木啓吾・小川捷之編『臨床社会心理学3 成熟と喪失』，至文堂，1980，308-323頁。

「わたしの保育を問い返す——キュックリヒ記念講演——」，キリスト教保育，1980，1，52-58頁。

「意欲＝その人格形成における意義」，児童心理，1980，4，16-25頁。

（論文コメント・書評）

「嘉田由紀子，家族農場の継承と世代間関係へのコメント」季刊人類学，1980，11，1，157-160頁。

「B. B. ホワイティング・J. W. M. ホワイティング，名和敏子訳，六つの文化の子供たち」，新刊の目（誠信書房月報），1979，5-7，4頁。

（エッセイ）

「生かされて生きる」，*IPR NEWS*，1979，10，6頁。

Ⅳ　その他

前年度にひき続き，日本心理学会「心理学研究」・*Psychological Resarch* 編集委員，日本社会心理学会常任理事，日本学術会議心理学研究連絡委員会委員，日本学生相談研究会理事，日本ＩＰＲの会監事をつとめた。

次の諸大学・集会などの講師をつとめた。聖心女子大学文学部「集団の過程」（1979通年），同「個人間コミュニケーション」1680通年，名古屋大学教育学部「比較文化心理学特講」（12月19日～22日，集中講義）；北陸学院短期大学保育科「精神衛生」（12月1日～4日，集中講義）；キリスト教保育連盟第50回1979年夏期講習会キュックリヒ記念講演）7月31日，於仙台・作並）；東京都立渋谷児童会館講演（3月15日，10月21日）；香川県下高校教師カウンセリング・ワークショップ（8月6～8日，於高松）；神奈川県行政センター主催シンポジウム話題提供（9月20日於横浜）；ＩＣＵ幼児園講演（10月16日），全国赤十字病院職員研修会（10月20日，於兵庫県三田）。

都留　春夫

Ⅰ　研究活動等

(1)　学生の国際交流に関しては，国際基督教大学国際教育交流室長としての職務を通して実践活動をつづけている。1980年6月札幌で開催された留学生交流研究協議会に出席，分団討議の司会を担当した。

(2)　カウンセリング，小集団過程関しては，ケース研究，各種研修会，学習会な

どを通して実践的な研究をつづけている。

1979年8月日本カウンセリング協議会主催の夏季 カウンセリング・ワークショップの世話人となり，エルカミノ大学教授 ローガン・ファクスと共同で指導にあたった。

フォーカシングに関しては，ワークショップ・勉強会などを毎月開催し，技法の開発を試みている。

II　学会活動・講演会等

(1)　日本心理学会第43回大会（東京，1979年9月）に参加した。機関誌「心理学研究」掲載論文の英文アブストラクト数篇の校閲をした。また日本教育心理学会機関誌「教育心理学研究」の編集協力委員を引きつづきつとめている。

(2)　1980年6月一般教学に入会し大会に参加した。

(3)　「自己理解のためのグループ合宿」第15回，1970年3月21〜26日，東京大学学生相談所主催。スタフ。

(4)　国立療養所幹部看護婦（リーダーシップ養成）研修会，1979年10月9〜21日，厚生省療養所課主催。講師。

(5)　グループリーダー学習会，（1979年8月）主催。

III　著作・執筆協力等

(1)　「グローリアと3人のセラピスト」共訳（佐治守夫・平木典子・都留春夫）日本精神技術研究所，1980.

(2)　雑誌『カウンセリング』

（a）『なかまづきあいを求めて—その10—ジエンドリンさんとチエンジェス』Vol. 11-2（No. 44, 1979）第11-19頁

（b）「なかまづきあいを求めて—その11—ローガンファックスとのめぐりあい」Vol. 11 —3（No. 45, 1979）第30—32頁

（c）「なかまづきあいを求めて—その12—河口湖畔の PCA」Vol. 11-4（46, 1980）第8—11頁

（d）「なかまづきあいを求めて—その13—すこやかさとのであい」Vol. 12-1.（No. 47, 1980）13-20頁

(3)　雑誌『児童心理』

（a）「感受性の訓練と表現意欲」，第33巻第12号（1979年）65-70頁

（b）「たくましく生きる意欲を育てる教育」第34巻4号（1980年）72-78頁

(4)　雑誌『総合看護』

（a）「病気とのつきあい」（その3）第14巻（1979）第3号

（b）「病気とのつきあい」（その4）第14巻（1979）第4号

原　一雄教授

Ⅰ　研究活動

1）　大脳半球の機能的非対称性の研究

2）　ニコチンの精神薬理・行動遺伝学的研究（文部省科学研究費補助金課題番号545019）

3）　大学教育の総合的評価

Ⅱ　学会発表等

1）"Effects of chronical nicotine in take upon Hebb-Williams maze learning on mice." Psychopharmacology and Behavioral Gentics Symposium (Colorado Univ.), 1979, 7, 20.

2）　第2回ICU Neurolinguistics Symposium を Dr. F. C. Peng と主催し，「総括」を行なう。1980,　3，30.

3）　第19回生理心理学・精神生理学懇話会を主題「学習と脳：私のアプローチ」の下に本学において主催する。1980,　5，24.

Ⅲ　著　作

1）　（翻訳）J. Brown 著『認知と言語の神経心理学』新曜社，260頁，1979.

2）　「環境心理学の視座と使命」望月衛・大山正編『環境心理学』287-300頁，朝倉書店，1979.

3）　「Ⅷ　結び――暮しよさを求めて」今井省吾・小松崎清介・詫摩武俊・原一雄・山本和郎・吉田正昭著『都市環境と住まいの心理学』287-312頁，彰国社，1979.

4）　「視覚認知における大脳半球左右非対称性の研究」，F. C. パン・堀素子編『ことばの発達』1-19頁，文化評論出版，1979.

5）　（石本菅生共著）「一般能力検査（ＳＡＴ）の追跡研究：その１　変遷と現状（1961～1977）」『教育研究――国際基督教大学学報Ｉ―Ａ』1979，22，71-89頁。

Ⅳ　講演・放送

1）　「脳の中のことば」ＮＨＫ教育テレビ，1980年２月27日放映。

Ⅴ　その他

日本心理学会『心理学研究』・『Japanese Psychological Research』編集委員。生理心理学・精神生理学懇話会運営委員。大学基準協会一般教育委員会委員。日本私立大学連盟外国教育事情調査委員会主査。

栗山容子講師

Ⅰ　研究活動

(1)　「言語の発生と機能に関する縦断的研究」（科学研究費補助金奨励研究（Ａ））の基礎データを集め，整理を進めている他，前年にひき続き，生後８ケ24月より24ケ月までの乳幼児の行動観察の資料分析を行ない，順次発表している。

(2) 1979年8月第4回ＩＣＵ幼児言語学シンポジウムに参加，論文発表の司会をする。

1979年9月　第43回日本心理学会大会に参加

1979年10月　第21回日本教育心理学会大会に参加

Ⅱ　学会発表等

(1) 1979年8月18日，19日　第4回ＩＣＵ幼児言語学シンポジウムにおいて「初期言語発達と象徴遊びの発生」を発表（4名の共同研究）

(2) 1979年9月20〜22日　第43回日本心理学会大会において「初期言語発達と象徴遊びの発生 (1) 言語発達を中心として

〃　(2)象徴機能の発達を中心として」の連名発表を行なった。

向井敦子助手

Ⅰ　研究活動

(1) 筆者等の作成した心理学的行動座標を用いて，協同作業状況における行動の調整様相と作業に対する印象との関係，および，作業時の成功・失敗経験との関係を検討する研究を継続している。

(2) 3名の乳幼児を対象にして，乳幼児の行動の形成と変容の過程を縦断的に観察している。

Ⅱ　学会発表

(1) 1979年9月，日本心理学会第43回大会において，「協同作業状況における成功・失敗経験と行動展開様相」を発表（西沢雪乃氏との共同研究，口頭発表者は向井）

(2) 1979年10月，日本教育心理学会第21回総会において，「協同作業状況に対して成員がもつ印象と行動展開様相」を発表（(1)と同様）

Ⅲ　著　作

（共訳）R. J. センター，R. E. ダイモンド共著 依田明編訳「現代心理学18講」学研，1980，（第11講から第13講まで分担）

D　視聴覚教育研究室

1956年より，視聴覚教育研究室にあって，研究の中心となってこられた布留武郎客員教授は，1980年4月21日逝去され，4月23日国際基督教大学礼拝堂において，葬儀がとり行われた。

視聴覚教育研究に事務局を置く日本視聴教育学会及び日本放送教育学会（会長西本三十二名誉教授）の合同大会が，1979年10月11，12日の両日，札幌市教育文化会館（大会校―北海道教育大学）において開催された。当研究室からは教職員と大学院生多数が参加した。

中野照海教授はひき続き大学院部長の職にあたり，1980年4月に休暇を終えて帰

任した阿久津喜弘教授は教育学科長に就任した。また，1980年4月より石本菅生準教授は一年間の研究休暇をとっている。

中野照海教授

I　研究活動

1）映像の授業過程における役割――その参照機能と情意機能（「映像と教育」に関する研究集団，放送文化基金による継続研究）

2）教育工学の方法・技法の事例の収集と体系化の試み（編著として出版予定）

3）放送教育の歴史と研究動向のまとめ（NHKラジオによって1980年4月7日より13回連続放送）

4）文部省特定研究「社会と人間の開発」の「アジアと日本の教育」班に参加，1979―80.

5）"Information, Education, and Communication Activities for Family Planning in Japan", a paper presented at Reginal Committee meeting on Information, Education and Communication, April 10-13, 1980, Kuala Lempur.

II　著　作

1）共著（映像と教育研究集団の一員として）『映像と教育』，日本放送教育協会，1980年10月，300ページ。

2）「経験主義教育の後遺症」，『高校教育展望』1979年9月，62-67。

3）"The problem of defining educational technology" *Educational Technology Research*, Vol. 3, 1979, 5-13.

4）「ニューメディアとテクノロジーと教育」，『教育と情報』No. 266, 1980, 2-7。

5）「ゆとりと充実の教育を考える――教育工学の立場から――」，『教育工学実践シリーズ』，Vol. 45, 1980, 28-31。

6）「理科教育と映像の果す役割」，『初等理科教育』，Vol. 14 No. 9, 1970, 6-9。

III　その他の活動

1）Evaluation Mission on Mobil Team in Educational Technology in Asia, as a team leader: Philippiner Malaysia, and Thailand, July 8-17, 1979. An evaluation report was submitted to the Secretary-General, Japanese National Commission for Unesco.

2）「授業の設計と放送教材」，基調講演，全国中学校放送教育研究会 特別研修会，東京，1979年7月30日。

3）「日本と世界の教育」，講演，日本貿易研修センター，1979年8月25日。

4）「学術雑誌のありかた」学会連合シンポジアム，パネリスト，学会誌刊行セ

ンター主催，1979年11月7日。

5）「視聴覚教育の意義と役割」，講演，東京都立教育研究所，1980年5月15日。

6）「世界の教育方法改善の動向」，講義，視聴覚教育指導者講座（上級），文部省・国立社会教育研究所，1980年7月10日。

7）「続，授業の設計と放送教材」，全国中学校放送教育研究会特別研修会（於熱海），1980年7月29日。

8）"Technology, New Media and Education," Lecture, International Workshop on Educatioal Broadcast, at NHK Central Institute for Retearch and Training, September 25, 1980.

9）放送(NHKラジオ第2放送)「放送教育の歩み」(1980年4月～6月，連続13回)

10）学会および研究団体における委員・役職（1980年3月1日現在）

1. 日本視聴覚教育学会常任理事，同学会「視聴覚教育研究」編集委員。
2. 日本放送教育学会常任理事，同学会「放送教育研究」編集委員長。
3. 「日本教育工学雑誌」，（文部省・教育工学センター協議会）常任編集委員・編集幹事。
4. 日本語学ラボラトリー学会評議員。
5. 教育放送審議会（文部省）委員。
6. 日本教育工学協会理事。
7. 「視聴覚教育賞」（文部省・日本映画教育協会）選考委員。
8. NHK 学校放送地方諮問委員会（東京都）委員。
9. IPPF East, South East, and Oceania Regional Council, member.
10. 国立放送教育開発センター委員。

阿久津喜弘教授

I　研究活動

1）日本社会心理学会第20回大会（1979年9月3－5日，ICU）において，共同研究「組織の革新性に関する実証的研究」を発表。

2）昭和54年度放送文化基金の助成・援助による共同研究「放送関係文献総目録の作成」を実施。

3）地域活動促進研修会（1979年7月26日，鹿島町教育委員会）において，「ゆたかな明日をつくるための活動」と題して講義。

4）マーケティング懇談会月例講座（1980年3月26日，日本マーケティング・グループ）において，「"優しさの時代"と大衆文化の表現形態」と題して講義。

II　著　作

1）「社会心理学におけるコミュニケーション研究」横田澄司編『日本の社会心理学』（人間探究の社会心理学5）朝倉書店，1979年7月，98-12頁。

2）「コミュニケーション過程」「コミュニケーション・モデル」「コミュニケーション理論」東洋他編『新教育の事典』平凡社，1979年4月，329-332，332-333，334-335頁。

3）「ハードとソフト」『視聴覚教育』33巻7号，1979年7月，44-45頁。

Ⅲ　その他

日本視聴覚教育学会理事・編集委員。

日本放送教育学会理事・編集委員。

日本教育社会学会渉外部長・国際交流委員。

大学セミナー・ハウス　共同セミナー委員。

石本菅生準教授

Ⅰ　研究活動等

1.　IIS-CAIの研究と開発

2.　CAI 学習における学習者制御の実験的研究

3.　マイクロコンピュータを用いたCAIシステムの開発

4.　マイクロコンピュータのための教育心理統計プログラムパッケージの開発

5.　教育研究所研究プロジェクト ICU SAT の追跡調査研究に参加

6.　学会発表

日本視聴覚教育学会第15回大会（1979年11月）において「概念学習における学習の順序とフィードバック」を発表（同学会論文集 p. 29-30）

Ⅱ　著　作

1　言語による概念の学習に関するＣＡＩ実験――学習順序の自己選択『視聴覚教育研究』11　p. 75-83

2　Index to Computer-Based Learning に見る最近の CAI コースウェアプログラム開発の趨勢（1976～1978）『視聴覚教育研究』11 p. 75-83

Ⅲ　その他

日本視聴覚教育学会常任理事

日本教育工学雑誌編集委員

浜野保樹助手

Ⅰ　研究活動

1）昭和55年度前期放送文化基金の助成による「2歳児テレビ番組研究」（代表者・白井常東京女子大学名誉教授）に参加。

2）放送教育開発センターが実施した諸調査に参加。

Ⅱ　学会発表

1）1979年9月4日，日本社会心理学会第20回大会（国際基督教大学）において，阿久津喜弘教授らと連名で，「組織の革新性に関する実証的研究」を発表（同学会論

文集，113〜134頁)。口頭発表者は浜野。

2) 1979年10月11日，日本放送教育学会第24回・日本視聴覚教育学会 第16回合同大会（北海道教育大学）において，「教育イノベーション利用を促進する要因」を発表（同学会論文集，12〜13頁)。

Ⅲ　著　作

1) 「マス・メディアによる性的描写の利用と効果に関する72の一般化」，『ICU教育研究』22，1979，91〜121頁。

2) 「教育テレビ番組の制作変数について(1)」，浜野保樹，青木繁，平井出けい子，『放送教育研究』第10号，1980，115〜134頁。

Ⅳ　その他

日本教育社会学会研究部員。

武蔵野美術大学（社会教育概論，視聴覚教育)，青山学院大学（視聴覚教育）で非常勤講師。

E　理科教育法研究室

田坂興亜助教授が1989年9月から就任された。山口俊夫教授は1980年4月から1年間の研究休暇をとられ，防衛医科大学生理学教室で藤野和宏教授と筋生理学に関する共同研究を行っている。ウォース教授 1980年3月に教養学部長の任務を終えられて，4月から教育と研究に専念されている。三宅教授は前年にひきつづき，教育研究所所長並びに図書館長として行政面でも活躍されている。

研究室員は各自の研究課題に取り組んでいるが，理科教育の面では柿内教授を中心とする文部省科学研究費による研究が特に活発に行われている。

三宅　彰教授

Ⅰ　研究活動その他

1) 1979年10月5〜7日，松山市の地方公務員共済道後保養所において「高分子物理」研究討論会を主催。

2) 1979年11月27日〜12月6日，　広島大学大学教育研究センター客員研究員として同センターに長期滞在。前年度に引続き同センターの「大学の国際化に関する総合的研究」の研究分担。また，1980年1月29〜31日 第2回広島高等教育国際セミナー「1980年代の高等教育——新しい課題への挑戦」参加。

3) 日本物理学会事務局問題特別委員会委員（1977年9月〜1980年8月)。応用物理学欧文誌刊行会委員長（1979年4月〜1980年3月)。

4) 奈良教育大学教育工学センター見学（1980年5月9日)。

5) 1980年6月2〜3日，八王子市大学セミナーハウスにて 高分子学会ミクロシンポジウム「高分子物性における新しい理論の展開——スケーリング理論を中心に」オーガナイザー。

Ⅱ　学会発表等

1）　広島大学大学教育研究センター研究会（1979年12月４日）：大学の国際化と言語の問題。

2）　広島大学理学部化学教室特別講義（1979年12月６日）：高分子の物性。

3）　高分子学会年次大会（1980年５月27日，京都）：Stiff Chain の統計とブラウン運動論。

Ⅲ　著作・論文

1）　Theory of Twisted Stiff Chains, Ⅲ : J. Phys. Soc. Japan, 47 (1979) 1959—1963

(A. Miyake and Y. Hoshino).

2）　Concentration Dependence of Segmental Interactions in the Polymer Solution ; Repts. Progr. Polym. Phys. Japan, 22 (1979) 35-38。

柿内賢信大学院教授

Ⅰ　完成しあるいは現在行いつつある研究

(1)　「客観の記述と思考における言語」　文部省特定研究の班の代表者として1977—1979年度にわたる研究をまとめた。

(2)　「理解の測定」について　理解にはいろいろな型があり，また個人差や，個人が属するコミュニティによってちがうが，それを「測る」客観的方法を確立するための研究を行っているとくに理数科について

(3)　総会科学の教育　1980年度文部省科学研究補助金による総合科学教育の基本的問題の事例研究（Worth）教授，田坂準教授と共同)。

(4)　「科学と社会」　科学が社会において果たす役割を種々の角度から研究している。最近はとくに (1)意志決定への参加における知識の問題，(2)異種伝統の間の協力の問題などに重点をおいている。

(5)　「液体の水の構造」　これまでの研究でなお不明確であった点，とくに氷型およびランダム型を純粋にとり出す方法についてかなりの知見をえ，また従来の赤外線分光に加えて核磁気共鳴によっても分析を行なっている。

Ⅱ　論文および著書

1.　"Hopes and Difficulties in Science and Technology of Japan" in Faith Science in an Unjust World (World Counicl of the Churches) (1980)

2.　理解の程度の測定について　一般教育学会誌第２号（1980）

3.　客観の記述と思考における言語（1979）編集 文部省特定研究班報告

4.　アインシュタイン　相対論，量子論による世界の新しい記述　玉虫文一編「科学史入門」（1979）

5.　アインシュタイン，科学者として人間として（共訳）(1981)

石川光男教授

Ⅰ　研究活動

1.　生体高分子に対する放射線効果

2.　理科教育における総合的評価法の開発と分析

3.　自然科学と関連のある他の諸分野との学際研究の推進

4.　The Eighth Conference on the Unity of Sciences に出席，於ロスアンゼルス，1979年11月22日～25日

Ⅱ　著作・論文

1.　Degradation of Calf Thymus DNA by Ultra Violet Light(1); Rep Prog. Polymer Phys. Japan, 22 (1979) 717 (K. Takakura, M.Ishikura)

2.　Degradation of Calf Thymus DNA by Ultra Violet Light; J. Radiat. Res. 21 (1980) 63 (K. Takakura, M.Ishikawa)

3.　「大学入試の改革と学習評価の問題点」『教育研究』，20(1979) 123—134頁。

4.　「個の尊重と個の超越」『情報化時代の新しい教育』，教育出版センター，1980年5月，79-93頁。

5.　「技術と人間」，「科学・技術のフロンティア」（翻訳）『科学と人類の未来』，共栄出版，1980年5月，228-242，259-265頁。

6.　「現代文明と学際的国際会議」『大学世界』，第3巻，(1980)，第6号，24-31頁。

Ⅲ　学会発表

1.　日本放射線影響学会第22回大会（1979年11月24日，大阪），「短波長紫外線による子牛胸腺ＤＮＡの分子鎖切断」（石川光男，高倉かほる）

2.　第1回学際研究会議（1979年12月16日，東京），「新しい教育目標の設定」

Ⅲ　その他

1.　「科学・技術の功罪」世界日報，1980年1月11日。

2.　「子供をダメにする教育からの脱皮」（講演），武蔵野文化サロン，1980年1月17日。

3.　「地球的危機を招く現代科学技術文明」（講演），武蔵野文化サロン，1980年4月24日。

4.　日本創造学会設立準備委員。

5.　第1回学際研究会議実行委員。

ドナルド・C. ウォース教授

Ⅰ　研究活動

1.　Solar Energy Research and Development:
Thermal and Electrical Studies (Particulary Involving Various Forms of Concentrating-Type Collectors)

2. Studies of Science Education (Particularly of "Integrated Physical Science" for Secondery School Classes)

3. Development of A General Education Course Concerning The Development and Applicaton of The Energy Concept.

勝見允行教授

I　発表論文

1) Katsumi, M., H. Kazama and N. Kawamura. Osmotic potential of the epidermal cellls of cucumber hypocotyls as affected by gibberellin and cotyledons. Plant & Cell Physiol. 21 : 933—937 (1980).

2) Katsumi, M. and N. Kawamura. Physiological effects of cotyldons on gibberelin-induced cucumber hypocotyl elongation. Plant & Cell Physiol. (in press).

II　学会発表等

1) 勝見允行・風間晴子・内野良子，キウリ下胚軸における酸生長とオーキシン生長の分離。日本植物学会第44回大会，1979年。

2) 風間晴子・難波紀子・勝見允行，下胚軸表皮クロロプラストに於る糖一デンプン転換に対するジベレリンの影響，日本植物学会第44回大会，1979年。

3) 勝見允行・ジベレリンによる細胞生長の制御。基礎生物学研究所研究会「植物体の形態形成と運動における植物ホルモンの役割と諸問題」，1979年。

4. Katsumi, M., Gibberelin control of cell elongation through osmoregulation, The 10th Internatl. Conf. on Plant Growth Substances, Madison, 1979.

III　その他

1) 高等学校生物における植物ホルモンの実験(講演)，神奈川県理科教育センター，1979年。

2) オーキシン a，b の謎，理科資料，(三省堂)，2(6)：7—8，1980年。

山口俊夫教授

I　研究活動

骨格筋の興奮収縮連関について

II　学会発表

Dantrolene Na の骨格筋細胞に作用する部位について　第57回日本生理学会大会(1980. 3. 神戸)

田坂興亜演教授

I　研究活動

(1) 有機リン化合物，特にエノールホスフェート類の合成と反応に関する研究。

(2) 奇型を生じたサルの群に与えられていた小麦中の残留農薬の分析。

(3) 自然科学教育の綜合化の具体的試み—とくに理科をめざして（1980年度文部省科学研究費一般研究，柿内教授，Worth 教授と共同研究）

II 著 書

大河原，畑，中井編「合成試薬」（講談社），亜リン酸トリメチル及びトリエチルの項，1980年5月。

III その他

書評：高松修著「石油タンパクに未来はあるか」,「環境破壊」，11，28〜29（1980年6月）。

F 英語教育研究室

研究室の新メンバーとして Bernard D. Harder 準教授が加わり，英語学分野の教育・研究が充実されてきた。

教養学部語学科主催によるＩＣＵ夏期言語学会（第18回は1979年8月30日—31日，第19回は1980年8月28—29日）には毎年多数の英語教育研究科卒業生が積極的に参加している。この機会に同窓生の集りも持たれ，各分野で活躍している卒業生の近況報告，相互の親睦をはかる場として定着してきている。

第18回言語学会の研究発表，特別講演は *Descriptive and Applied Linguistics*, vol. 13 として1980年4月発行された。第19回の分は目下編集中で，1981年春には発行される予定である。

言語学研究室

井上和子教授

1 研究活動その他

1) 昭和54年度文部省科学研究費補助金の特定研究『言語』の「日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究」の研究代表者。

2) 文部省学術審議会委員　1978—現在

3) ユネスコ国内委員　1979—現在

4) 日本言語学会委員　1973—現在

5) 大学英語教育学会評議員　1974—現在

6) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員　1978—現在

2 著作・論文

1) 「旧い情報・新しい情報」『言語』8巻10号，1979年，22-34頁。

2) 「格助詞をめぐって」『言語』8巻12号，1979年，22-30頁。

3) 「書評，久野暉著『談話の文法』」『国語学』120号，1980年，70-78頁。

4) 『研究報告：日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究』1979年，231頁，（編集）

5) "On connective Particles in Japanese" 『研究報告：日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究』，1979年，1—18頁。 (with Iyoko Hirata)

6) "On Conditional Connectives" 同上，1979年，19—88

7) 『研究報告：日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究』，1980，177頁（編集）

8) "Significance of Structural gaps in Japanese Complex Noun Phrases" 同上，1980年，21—35頁（with Iyoko Hirata）

9) "A Study of Discourse Initial Sentences." 同上，1980年，37—56頁。

10) 「生成文法の軌跡」『言語』9巻11号，1980年，4—13頁

3 翻 訳

N. Chomsky 『言語論 — 人間科学的省察』大修館，1979年，461頁（井上和子，神尾昭雄，西山佑司共訳）

小林栄智教授

I 研 究 活 動

a. 古英語，中英語に関して

b. 英語教材の開発

c. 中世英語英文学談話会（於東京大学）の秋の研究会に出席（12月）

II 著 作

a. 『新英語学辞典』，研究社（印刷中）へ6項目

III そ の 他

大学英語教材として次の4点を編注，いずれも三修社発刊

a. Christine Tighe, *A Year with an English Family*, 1980, 84頁

b. C. Murray Browne, *The English and the Sea*,, 1980, 85頁

c. Ulane Bonnel, *Under the Ice Cap*, 1980, 89頁

d. Ulane Bonnel, *West Texas* 1980, 91頁

村木正武教授

I 論 文

1978,『現代の英文法2，意味論』，共著者：斎藤興雄，東京：研究社，xiv＋442

1978, "Sentential Pronominalization and precyclic lexical insertion", *Annual reports*, Language Division, ICU, vol. 3, pp. 127-130.

1978, "Lexical presupposition of *bachelor*", 井上和子編『研究報告：日本語の基本構造に関する理論的実証的研究』，ICU, pp. 145-147.

1978, "Sikanai construction and predicate restructuring", John Hinds & Irwin Howard, eds., *Problemes in Japanese syntax and semantics*, Tokyo ;

Kaitakusha, pp. 155-177.

1979, "On the rule Scrambling in Japanese", G. Bedell, E. Kobayashi, & M. Muraki, eds., *Explorations in linguistics ; papers in honor of Kazuko Inoue,* Tokyo : Kenkyusha, pp. 369-77.

1979, "Relativization and *make headway*", *Annual reports,* Language Division, ICU, vol. 4, pp. 41-48.

1980, "Semantic structure and perspective", *Annual reports,* Language Division, ICU, vol. 5, pp. 77-85.

II 書　評

1978, "Review : Masaaki Yamanashi, 1977, *Generative semantic studies of the conceptual nature of predicates in English,* Tokyo : Kaitakusha", *English lnguistics* (英語学), Tokyo : Kaitakusha, vol. 19, pp. 95-111.

III 研 究 発 表

1979, May 27, 「視点と意味構造」, シンポジウム, 日本英文学会, 東京：専修大学

1980, March 21, Co-auther : Matsuo Soga, "Patterns of errors among intermediate and advanced students of Japanese", presented at the Annual Meeting of the Association of Asian Studies, Washington, D. C.

1980, May 26, "Perspective in the semantic structure of English and Japanese", presented at the Annual Meeting of the Canadian Society of Asian Studies, University of Montreal, Montreal, Canada.

IV そ の 他

1979, September-August, 1980 : Visiting professor, Asian Studies Department, University of British Columbia, Vancouver, B. C., Canada.

F. C. パン教授

I 研 究 活 動

I. 著　作

1) 『ことばの発達』共著（堀 素子)。文化評論社。1979年。120頁。

2) 『ことばの諸相』共著（堀 素子)。文化評論社。1979年。240頁。

3) 『The Development of Meaning』 co-author (Patrice L. French), Bunka Hyoron Pub. Co. 1979. pp. 351.

4) "Sound Change and Language Change : A Sociolinguistic Interpretation," Language Sciences, Vol. 1. No. 1. ICU. Language Sciences Summer Institute, 1979. pp. 207 and Editor.

5) Language Sciences, Vol. 1, No. 2, Editor, ICU Language Sciences

Summer Institute, 1979. pp. 180.

リチャード　リンデイ教授

I　研　究　活　動

1）1979年8月，クリスチャン学校夏季セミナーで“英語教授法”を担当した。

2）1979年10月，1980年2月，ルーテルセンターで“英語教授法”を担当した。

II　著　　作

1）「The Teaching of English in Japan」『JAPAN QUARTERLY』1979

2）「New Prince English Course」Books 1, 2, and 3. Kairyudo, 1980.

3）“Factors Contributing to the English Reading Ability of Japanese University Students-- Vocabulary,” Annual Reports of Language Division, ICU, vol. 5, 1980. pp. 87-109.

2.　大学院教育学研究科修士論文

1980年3月卒業者

A．教育哲学

高橋　　浩　ボルノーの「希望の哲学」の形成過程

B．教育心理

西沢　雪乃　幼児の重さ概念形成に及ぼす「はかり」導入の効果について

C．視聴覚教育

亀高まち子　外国語学習における静画の効果に関する実験的研究

D．英語教育

森田　治恵　Emily Dickinson's Search for the Center

村上　　丘　A Study of Perception Predicates in English

矢田　裕士　A Study of 'Ond' in *Beowulf*

1980年6月卒業者

A．教育哲学

鈴木　幸男　教育哲学の基礎としてのジョン・デューイ倫理観への一考察

B．視聴覚教育法

青木　　繁　教育テレビの制作に関する要因の研究

C．英語教育法

秋山　高二　A Sociolinguistic Approach to Discourse Analysis

山内みどり　A Comparative Study on the Semantics of the Japanese Connective *to* and the English *when*

石丸　暁子　Error Analysii of the English Articles in Second Language Acquisition

3. 教育実習報告

1979年度の教育実習には123名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1.　実習生総数　123名

男　　子　40名

女　　子　83名

2.　実習日程

1979年4月16日～4月28日　西園女子学園（静岡）

5月7日～5月19日　県立宇都宮高（栃木）

5月21日～6月2日　宮城学院高（宮城），県立石巻女子高（宮城），富士宮第一中（静岡），山手学院（神奈川）

5月28日～6月9日　渋谷区立松涛中，筑波大学付属高（東京），県立高田校（新潟），青山学院高等部（東京），聖学院高（東京）

6月1日～6月14日　明星学園高（東京），県立桐蔭高（和歌山），福岡女学院中（福岡）

6月4日～6月16日　三鷹市立第一中，三鷹市立第四中，三鷹市立第六中，小金井市立緑中，小金井市立南中，調布市立神代中，調布市立第三中，杉並区立西宮中，練馬区立関進第四中，港区立高松中，新宿区立東戸山中，世田谷区立深沢中，田無市立第三中，世田谷区立立砧中，杉並区立天沼中，立川市立第九中，昭島市立清泉中，都立三田高，都立駒場高，都立芸術高，都立井草高，都立町田高，都立立川高（定時制），都立国立高，都立国分寺高，都立上野高，都立足立東高，都立豊多摩高，都立武蔵村山東高，都立富士高，横浜市立大正中（神奈川），県立安房高（千葉），川越市立富士見中（埼玉），鳥取市立邑法第一中（鳥取），県立横浜翠嵐高（神奈川），県立花輪高（秋田），目白学園（東京），新潟市立関屋中（新潟），県立高田高（新潟），大分大学教育学部附属中，

	高崎市立片岡中(群馬)，弘前学院聖愛高（青森)，県立岡山操山高（岡山)，新居浜市立川東中(愛媛)，九州女学院高（熊本)，東京学芸大付属高，県立前橋女子高（群馬)，県立大東高（島根)，松陰中（東京)，日体桜華女子高（東京)，城西大付属城西高（東京)，聖光学院中（神奈川)，船橋市立高根中（千葉)，麻布学園（東京)，ＩＣＵ高校
6月11日～6月23日	三鷹市立第三中，武蔵野市立第二中，練馬区立石神井西中，成城学園高（東京)，南山中・高（愛知)，東洋英和女学院(東京)，清和女子中・高（高知)，松戸市立第三中（千葉)，東京立正高（東京)，徳島市立岐陽中(徳島)，玉川聖学院（東京)，女子聖学院中（東京)，立命館中（京都)，遺愛女子高（北海道)，麻布学園（東京)，県立竜ケ崎第一高（茨城）
6月18日～6月30日	湯浅中(和歌山)，女子学院中・高（東京)，県立外語短大附属高（神奈川)，区立立石中（東京）
6月18日～7月4日	立教女学院（東京）
6月21日～7月3日	県立花巻北高（岩手）
6月25日～7月7日	桜の聖母学院高（福島）
8月20日～9月1日	丸子町立丸子北中（長野）
8月26日～9月9日	北海道教育大附属札幌中
9月1日～9月14日	県立清水東高（静岡)，岡山大教育学部附属中
9月3日～9月17日	都立小石川高，川村高（東京)，県立安積女子高(福島)，県立諏訪清陵高（長野)，京都教育大附属京都中，掛川市立掛川西高（静岡）
9月10日～9月25日	ノートルダム清心中・高(広島)，県立沼津東高（静岡）
9月17日～9月29日	開成中・高（東京）
9月25日～10月6日	小金井市立東中
10月1日～10月14日	県立本荘高（秋田）
10月3日～10月22日	立教女学院（東京）

3. 実習協力校

教科＼学校名	三鷹一中	三鷹三中	三鷹四中	三鷹六中	小金井東中	小金井緑中	小金井南中	武蔵野二中	調布三中	調布神代中	田無三中	立川九中	昭島清泉中	杉並西宮中	杉並天沼中
社会				1	1									1	
理科		1			1			1							
数学					1										
英語	2	3	1		1	2	1		2	1	1	1	1		1
宗教															
計	2	4	1	1	4	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1

教科＼学校名	練馬関進四中	練馬石神井西中	世田谷深沢中	世田谷砧中	新宿東戸山中	渋谷松涛中	港高松中	都立三田高	都立駒場高	都立芸術高	都立井草高	都立小石川高	都立町田高	都立立川高（定時制）	都立国立高	都立国分寺高	都立上野高
社会				1		1			1		1					1	1
理科												1	1				
数学															1		
英語	1	1	1		1		1	1		1				1			
宗教																	
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

教科＼学校名	都立足立東高	都立豊多摩高	東高都立武蔵村山	都立富士高	筑波大附属高	学芸大附属高	京都教育大附属中	北海道教育大附属中	岡山大附属中	大分大附属中	城西大附属高	県立安房高	県立清水東高	県立花輪高	県立花巻北高	県立桐陰高	県立安積女子高
社会		1			1												
理科														1			
数学																	
英語	1		1	1		1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1
宗教																	
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

市立関屋中	1		1	1												
市立第三中		1	1													
市立邑法一中		1	1													
市立富士見中		1	1													
市立大正中		1	1													
県立諏訪清陵高	1		1	1												
県立石巻女子高		1	1													
県立横浜翠嵐高		1	1													
県立本荘高		1	1													
附属高県立外語短大		1	1													
県立沼津東高	1		1	1												
県立竜ケ崎一高	1		1	1												
県立大東高		1	1													
県立前橋女子高		3	3													
県立宇都宮高		1	1													
県立岡山操山高		1	1													
県立高田高		1	1													

女子聖学院中	1		1	1												
桜院中	1		1	1												
玉川聖学院		1	1													
立教女学院	1		2	1												
目白学園高		1	1													
東京立正高		1	1													
川村高		1	1													
東洋英和	1	1	3													
市立富士宮一中		1	1													
区立立石中		1	1													
町立丸子北中		1	1													
町立湯浅中		1	1													
市立掛川西高		1	1													
市立高根中		1	1													
市立川東中		1	1													
市立片岡中	1		1													
市立岐陽中		1	1													

南山中・高	1		1	1												
西遠女子学園中・高	1		1	1												
福岡女学院中	1		1	1												
立命館中		1	1													
九州女学院高		1	1													
桜の聖母学院高		1	1													
清心中・高ノートルダム		1	1													
宮城学院高		1	1													
弘前学院聖愛高		1	1													
聖学院高		1	1													
成城学園高	1		1	1												
開成中・高		1	1													
麻布学園	1	1	2													
女子学院		1	1													
明星学園高	1		1													
青山学院高		1	1													
日体桜花		1	1													

清和女子中・高	遺愛女子高	聖光学院中	山手学院中・高	ICU高	合計
					13
				1	15
					5
1	1	1	1	2	90
					0
1	1	1	1	3	123

4.　学科別および男女別

学科＼性別	男	女	合計
人文科学科	4	8	12
社会科学科	7	6	13
理学科	8	13	21
語学科	5	38	43
教育学科	5	11	16
教育学研究科	0	3	3
行政学研究科	0	0	0
比較文化研究科	2	1	3
聴講生	9	3	12
計	40	83	123

5.　教員免許状取得状況

1980年3月卒業生354名中，教員免許状を取得した学生の詳細は次のとおりである。（聴講生を除く）

教養学部

	免許状取得者実数	中学校教諭一級免許状	高等学校教諭二級免許状
人文科学科	12	11	12
社会科学科	12	10	12
理学科	14	12	14
語学科	33	32	33
教育学科	17	16	17
計	88	81	88

学科	社会		理科		数学		英語		宗教	
	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級
人文科学科							10	11	1	1
社会科学科	9	11					1	1		
理学科			7	9	3	3	2	2		
語学科							32	33		
教育学科		1					16	16		
計	9	12	7	9	3	3	61	63	1	1

大学院

研究科	専攻	高等学校教諭一級免許状
教育学研究科	理科教育法	0
	英語教育法	0
行政学研究科	行政学専攻	0
合計		0

6. 教員就職状況

公立中学校　：　男―0名，　女―5名

公立高等学校：　男―4名（英3，社1），　女―8名（英8）

私立高等学校：　男―1名（数学1），　女―5名（英5）

4. ひとのうごき

■新任・就任・辞任

土居健郎教授（精神医学）：80年4月より着任。

浜野保樹助手（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：80年4月より着任。

高橋　均講師（非常勤）（教育社会学）：79年9月より着任。

柏木繁男講師（非常勤）（心理学）：79年12月より着任。

神山正人助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：79年9月より着任。

森川尋美助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：79年9月より着任。

三浦真理子助手（非常勤）（教育学）：79年12月より着任。

小嶋正敏助手（非常勤）（心理学）：79年12月より着任。

村瀬良子助手（非常勤）（教育哲学）：80年4月より着任。

佐藤尚子助手（非常勤）（教育学）：80年4月より着任。

高橋　浩助手（非常勤）（教育哲学）：80年4月より着任。

弘兼武子助手（非常勤）（心理学）：80年4月より着任。

村上千鶴子助手（非常勤）（心理学）：80年4月より着任。

中谷智一助手（非常勤）（心理学）：80年4月より着任。

清水智織助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：80年4月より着任。

三宅　彰教授（物理学）：80年4月。教育研究所長，図書館長に再任。

阿久津喜弘教授（コミュニケーション）80年4月より教育学科長に就任。

Ben C. Duke 教授（比較教育学）：80年4月。大学院教育研究科長，専攻科長に再任。

立川　明講師（教育学）：79年7月。教養学部長補佐に就任。

川瀬謙一郎教授（教育哲学）：80年4月。教職課程プログラム主任に就任。

石本菅生助教授（計算機科学・教育工学）：80年4月より準教授に昇任。

森川尋美助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：79年11月退任。

三浦真理子助手（非常勤）（教育学）：80年3月退任。

明田芳久助手（非常勤）（心理学）：80年3月退任。

小嶋正敏助手（非常勤）（心理学）：80年3月退任。

西沢雪乃助手（非常勤）（心理学）：80年3月退任。

竹中　真助手（非常勤））視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：80年6月退任。

▩逝　去

布留武郎客員教授（視聴覚教育）：80年4月21日逝去。
成田克矢講師（非常勤）（比較教育）：80年7月14日逝去。
小島軍造名誉教授（教育哲学）：80年8月30日逝去。

▩休職・帰任

村木正武教授（言語学）：79年9月より80年8月迄休暇。
石本菅生準教授（計算機科学・教育工学）：80年4月より81年3月迄休暇。
山口俊夫教授（生物学）：80年4月より81年3月迄休暇。
讃岐和家教授（教育哲学）：80年9月より81年8月迄休暇。